

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年2月20日

事業所名 しばんはうさくら 松戸六高台教室

保護者等数(児童数)34

回収数21

割合62%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19	1	0	1		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	0	0	3	見ていないのでわかりません。	児発クラスは、児童2名に対して指導員1名(状況に応じて1:1)、放課後等デイサービスクラスは、児童2名および3名に対して職員1名の割合で配置しております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	18	0	0	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19	0	0	2		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	20	1	0	0		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19	2	0	0		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20	1	0	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	16	2	0	3		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	4	1	12		
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	0	0	0		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	21	0	0	0		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	15	1	1	4		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20	1	0	0		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	3	0	0		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	2	3	9	お話し会などの開催は勉強になりました。保護者同士の交流は積極的な交流を望まない方も多い様感じます。	毎年このような機会の提供をさせて頂こうと思っております。令和6年2月3日にも活動報告と懇談会を行います。お時間のある方は是非ご出席くださいますようお願い致します。また、このような会をご希望でない方も個別にご相談承っておりますので、いつでもお問い合わせください。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	20	0	0	1		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	1	0	0		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	20	0	0	1		
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	18	0	0	3			
非常時 等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	17	0	0	4		
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16	0	0	5		
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	18	2	0	1	楽しみといながらもいってこれるのが本当にありがたいです。先生方が季節に合った工作を用意してくださるので帰ってきたモノを壁に飾り上手だねと誉めるとニコニコして喜びます。	児童の状況に応じて、様々な製作物等を考案しています。今後もお子さまにとって有意義な趣向を凝らしていきたいと思っております。
	23 事業所の支援に満足しているか	19	2	0	0		

403 23 5 52

83%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 20日

事業所名 こばんはうすさくら 松戸六高台教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15	0	なるべくものを収納し、作業スペースが広がっている 午前の療育に対しては、マンツーマンが多いため職員全員で療育を行っている。 スペースとの調整に注意し、教室を適切に活用。	イベント時の人数が多すぎる事がある 職員の人数が少ない時に子供の人数が多かったり、教室の広さに対して人数が多く席などがキツイ状態で療育する事に関しては、改善しよりよい環境で療育できるように改善する。 スペース利用の効率向上を図り、定員数との調整をスムーズに行い最適な環境を提供。
	2	職員の配置数は適切であるか	15	0	児童2名に対し1名の指導員を割り当てている。 パートの方にも協力をさせていただきながら、療育グッズや療育を回している。 他の教室の職員に依頼に来てもらう事もある。 子どもの人数やニーズに応じて調整している。	療育に関してはパートを含め改善しているが、児童の制作や療育グッズを作る時間が限られているのでもう少し工夫をしなければならぬと思う。 スタッフのスキルや専門性を活かし、より効果的なサポートを提供。 全ての利用者にとって、無理なくアクセス可能な場所を提供。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	15	1	その日の活動の予定や、来てからやるべきこと、手を洗う理由などが掲示物でわかりやすく示されています。 1日の流れや、荷物置き場など視覚的に分かりやすいように工夫している。 生活空間を本人にとって理解しやすく、特性に応じた配慮をしている。 1日の流れをホワイトボードに書いている。イメージがしやすいよう、文字	活動に最適な状態に保ち、清潔で心地よい環境を提供する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16	0	毎日の清掃及び道具等の消毒の徹底を心掛けている。 朝上活動では、人数に合わせて机の向きなど工夫したり座る位置なども子供たちの性格などを考えて配置したりする時もある。 日々の清掃 毎日清掃を行っている。 清潔で心地よい環境で子ども達の活動に合わせた配置を実施。 コミュニケーションを大事にしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	0	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	勤務日数が少ないと伝達事項が伝わりにくい職員全体がアイデアを提案しやすい環境を整える。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開して第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	15	0	保護者とのコミュニケーションを大事にし意見や要望に応える。	評価項目の見直し、常に改善していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開して第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	0	分かりやすくまとめる。	透明性を保ちながら支援の質の向上に努める。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	0	アンケート結果を参考にしている。 客観的かつ独立した視点から評価をうける。	評価結果を活かして業務の質を向上させる
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15	1	全職員は難しいが情報共有ができるよう努力している。 継続的な研修機会 研修で得た内容をレジュメにして職員間で共有している	パートも機会があればお勉強させていただきたいスキル向上とモチベーションの向上を促進。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16	0	一人ひとりの特性を捉え、集団指導の中で1個人を尊重した計画を立てるようになっている。 療育的視点を持って子どもの発達状況をとらえ、先生方が課題を客観的に分析されていると感じています。 客観的なデータ収集をし、評価する。 保護者との面談後は面談の内容を職員間で口頭で共有している	アセスメントを通してより有効な支援計画を提供。 紙媒体にして共有する。内容を振り返ることや、その場になかった職員にも共有することができる
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	1	信頼性の高いツールを使用。	子どもの行動に適した支援を提供。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援が行われている	15	0	ガイドラインに基づく項目の選択。	包括的で具体的な支援を提供。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	15	1	具体的な支援を計画通りに実施。 支援会議等で情報共有。	得られたデータや経験をフィードバックして、質を向上。 年齢だけではなく、その子の特徴に合わせてもう少し工夫できたらと思う 創造的で子どもたちにも効果的な活動プログラムを提供。
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	15	0	各職員の専門知識やアイデアを活かす。	子どもの成長や変化に適したプログラムを提供する
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	15	0	さまざまな職員の得意なところがいかに活かされるかが重要です 児童の発達段階に合わせて、一つ一つのプログラムの中でも見出し教材から難しい教材まで準備されています。 職員ごとの得意分野を活かした活動内容。 柔軟に設計し、変化するニーズや状況に応える。子どもの成長や変化に適したプログラムを提供。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成して、支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	1	状況やニーズに応じてバランスを大事にする。	最適な配分を見つける。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	16	0	朝礼、申し送りノート等で再確認している。 事前打ち合わせを徹底している。	朝礼にない場合情報がぬけやすい コミュニケーションをし、効果的なサービス提供を目指す。 必要な確認項目を明確にしておきたい
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	6	終礼が行えないため、引き継ぎ、申し送りに関しては、ノートを活用している。 その日の支援について気づきや共有事項を整理。	簡単に様子を書ける表を作った。 職員の退勤時間にはらつきがある為、終礼が行えない為、それに代わるものを考案中。 パート勤務のため、送迎時に退勤するまでの時間に無理な支援の質を向上させるための改善策を実施。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15	1	気づきや共有事項をまとめる。 どの職員が見てもわかるような掲示の仕方をしている。	ニーズや経験を踏まえて記録をとる。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	0	モニタリングして適切性を評価。	柔軟な見直し、プロセス、最適な支援提供。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	1	専門性の最適な参画。	より迅速で効果的な意思決定を実現し支援する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14	0	円滑なコミュニケーションをし、情報共有。	子どもと家族に対する統合されたサービス提供。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13	1	情報共有し合う。	包括的なサービス提供。
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	3	連携体制の準備。 医療的ケアが必要な子の緊急対応する必要がある症状が出た時にすぐ対応をレジュメにして、職員全員が確認できる場所に貼っている。	子どもの健康状態に対する効果的なサポート提供。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15	0	保育所等訪問支援を行っている。 情報共有を積極的に行っている。	スムーズなプロセスの確立。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	1	情報共有し、協力関係を強化。	円滑な情報伝達。
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	13	2	受けた助言や研修を効果的に実践。 把握していない	最新の知識と実践の融合。 把握していない
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	9	公園等で他の子どもとの交流機会を設ける。	理解と協力の促進し、共感と結束を育む。
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	8	地域公園等で触れ合う機会がある。	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	16	0	その日の活動の様子について、できたことなどを伝え、ご家庭での様子なども伝えていただいています。 コミュニケーションを重視し、定期的に情報を伝え合う。 送迎、添乗の時は、できるだけ詳しく様子を伝えていきます。 連絡帳にその日の様子を記入したり、引き渡しの際にその日あったことを伝えたりして保護者とコミュニケーションをとっている。	効果的な情報伝達。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	15	1	定期的に広報紙を発行している。 個別ニーズへの対応を大事にしている。	家族全体のサポートを強化し、子どもの発達に寄与する。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15	0	丁寧な対応を心がけている。	利用者の理解促進。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	15	0	保護者とのコミュニケーションを大事にしている。	共通理解の強化。適切な支援を提供。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	16	0	ご家族からの相談に児童館の先生方が真摯に対応してくださっています。アクセシビリティの向上。引き渡しの際に毎回丁寧なコミュニケーションを取ることで、相談しやすい関係を築いている。	サポート体制の拡充。保護者の心の安定となる。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	4	絵本作家に来てもらい読み聞かせをしたらイベントは保護者も参加でき、保護者同士が繋がるきっかけになっていた。保護者会を開催している。	定期開催できるとよい
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適	16	0	相談の申し入れに対応するための整備。	迅速で適切なサポートを提供し、信頼感を育てる。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信	16	0	定期的に見やすい会報を発行。毎月、発行している。	情報共有を強化。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	16	0	写真撮影時の配慮等。写真撮影の際など、個人情報の取り扱いには注意している。厳格なセキュリティ対策の心がけ。	セキュリティ対策の向上を図り、安全な情報環境を構築。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16	0	円滑なコミュニケーションを心がける。	環境を整え、意思疎通や情報伝達を円滑に行う。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	6	同ビル内居住者を招き、内見をいただいている。夏祭りの際に大家さんに見学して頂いている。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	15	1	マニュアルを理解し、実践する。年2回の火災地震避難訓練、不審者防犯訓練をおこなっている。	実践的な訓練。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14	2	年に2回実施している。避難経路の把握。	毎月1回あったほうが良いと思う。その都度こどもの入れ替+165円などもあったりするので、対応の仕方が変わるとおもいます。円滑かつ迅速な対応。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	16	0	日常的に体調の確認。職員が周知できるよう事務室に掲示。	安全かつ適切な支援を提供。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	14	2	アレルギーの皆無をよく確認している。	アレルギー反応の防止。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	16	0	事例の具体性を意識。ヒヤリハットがあったときは、申し送りノートにも記入し、ヒヤリハット事例集を確認しない職員が出ることがないようにしている。	職員全体で協力して安全な環境を築く。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	16	0	最新の知識とスキルを身につけ、子どもと接する。	早期発見と対応。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計	15	0	条件や必要性を明確にする。	コミュニケーションの強化。最終手段の明確化。	